



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No41
文責 芹川博文
3月6日(金)

「言葉の力」じわっと包み込む温かさ

～ 子どもたちの俳句と標語から ～

「言葉の力」を感じる右の4つの作品。右から順に、2つは「万句のふるさと菊池」、隈府校区人権啓発推進会議標語、そして菊池市人権フェスティバルの最優秀賞の俳句と標語です。子どもの感性が言葉となり、俳句や標語の「作品」となる中で、強烈な光を放つと共に、優しく「じわっ」と包み込んでくれる温かさを感じます。

共通して感じられるのは「家族の温かさ」。「虹にすっぽり入ったぼくの家」を見た時の感動、「おばあちゃんの手作り団子」のおいしさと笑顔、「お兄ちゃんと話したい、遊びたい」というスマホを見る兄への思い、そして「ぼくの名前」を噛みしめる感謝の気持ちが伝わり、心が和みます。あらためて子どもの目を通した家族への思いの純粋さと感性の鋭さに、ハッとさせられます。

「ことば」は、「言霊(ことだま)」や「ことの葉」とも表現されます。古くから人々が大切にしてきたものであり、「命」と強く結びつくものです。使い方を間違えれば、「鋭い刃物」にもなります。

4つの作品を通して、あらためて自分の口から出る言葉、指先で綴る言葉を大切にしていきたいと思いました。また、当たり前のように過ごす家族や周りの人との時間も。

○ 最優秀賞 令和七年度「万句のふるさと菊池」

にじのはし すっぽりはいった ぼくのいえ

隈府小一年 とみおか たける

○ 最優秀賞 令和七年度「万句のふるさと菊池」

たべたいな ばあばのてづくり くりだんじ

隈府小一年 さかもと ゆな

○ 最優秀賞 隈府小校区人権啓発推進会議 標語

おにいちゃん スマホじゃなくて ぼくをみて

隈府小一年 やまなか ゆうが

○ 最優秀賞 菊池市人権フェスティバル 標語の部

大切にしたいな ぼくの名前 ありがとう

隈府小三年 最上 朝耀

「思い」を知ること ～ 「平和な未来」をつくるために ～

毎日通い、友達と過ごす学校、「いってきます」「ただいま」と言える家族や家、すべては「平和」という土台の上にあります。世界で止まることのない武力攻撃。映像では伝わりにくい、そこで暮らす人々の思いや叫び。今回も小学校が破壊され、子どもを含む多くの犠牲者が出たとのこと。

先日、熊日新聞に掲載された下の詩にショックを受けました。自分の子どもの足に名前を書く親の気持ち、「名前」に込められた「人としての尊厳」。報道の向こう側の「思い」を知ることが「平和な世界」への一歩につながると信じます。ひいては、目の前の子どもたちが生きる「平和な未来」をつくることにも。

おなまえ かいて セイナ・アッサム(原口昇平訳)

あしに おなまえかいて、ママ

ぬれても せいの マーカーペンで

ねつでも とけない インクでね

あしに おなまえかいて、ママ

ふといせんで はっきりね

ママおとくいの はなもじにして

ママのじをみて おちつけるでしょ

あしに おなまえかいて、ママ

きょうだいたちの あしにもね

そしたらみんな いっしょでしょ

ママのこだって わかってもらえる

あしに おなまえかいて、ママ

ママのあしにも

そしたらみんな おなまえかいて

かぞくだったって おもいだしてもらえる

あしに おなまえかいて、ママ

すうじは ぜったい かないで

うまれた ひやじゅうしよなんて

あたしは ほんごうになりたくない

あたしは はずじゃない おなまえがあるの

あしに おなまえかいて、ママ

たてもの がくすれて おちてきて

からだの じゆうの ほねがくだけでも

あげば ちのうの あしがしょうげんしてくれる

ガザでは、自分の子どもが殺されても身元がわかるよう、子どもの名前をその足に書くことにした親もいる。

2023年10月 CNN放送